

J12211#1

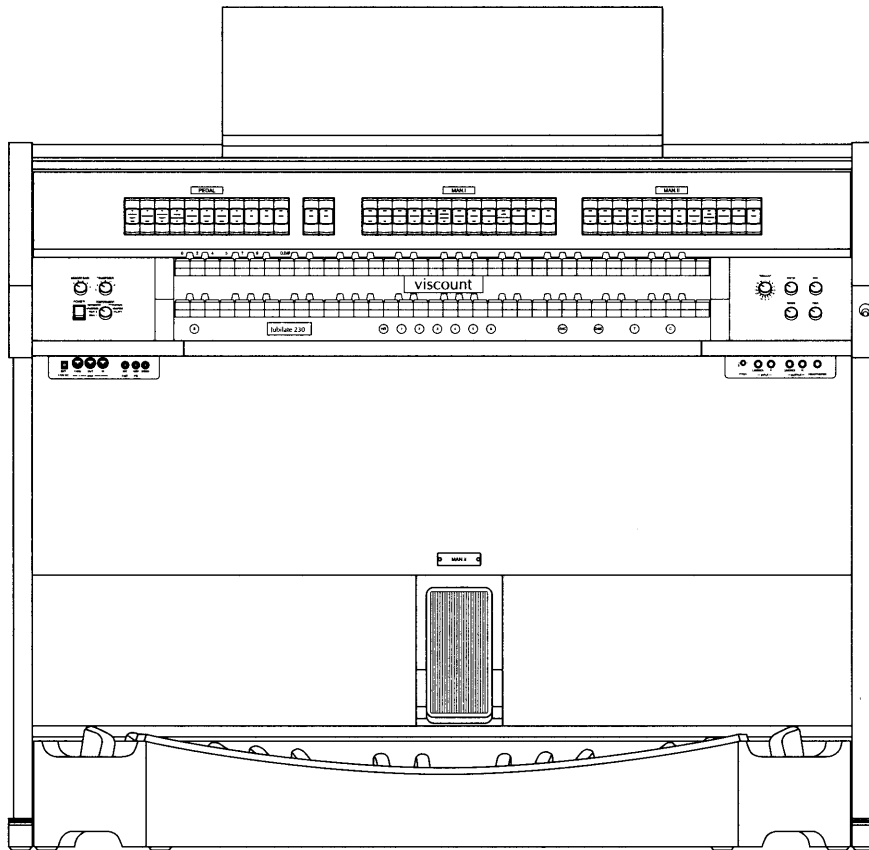
新 00.11.17  
管絃取説作部作  
J12211#1

# viscount

## ヴァイカントクラシックオルガン

### Jubilate

ジュビレイト227-230-232 取扱説明書






## はじめに


このたびは、ヴァイカウントクラシックオルガン、ジュビレイト227-230-232をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。ジュビレイト227-230-232は、伝統的なパイプオルガンの魅力を最新の電子テクノロジーによってあますところなく再現したクラシックオルガンです。ジュビレイト227-230-232の多彩な機能をスムーズに使いこなし、オルガン演奏を心ゆくまでお楽しみいただくために、ぜひこの取扱説明書をご活用いただきますようお願い申し上げます。また、ご一読いただいた後も、ご不明点が生じた場合に備えて、大切に保管いただきますようお願いいたします。

※この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。実際と異なる場合もございます。

安全上のご注意・・・ご使用前に必ずこの「安全上のご注意」をお読みください。

	<b>注 意</b> 感電のおそれがあります。キャビネットを開けないでください。	
<p><b>警告！ 感電の危険を避けるため：</b>                  パネルやカバーは取り外さないでください                  本製品を雨または湿気にさらさないでください                  本製品内部につきまして、お客様は修理・交換なさらないでください。</p>		
<p>修理・点検につきましては販売店にご相談ください</p>		

	本製品の取扱説明書では、重要な操作および修理・点検上の指示に関して、お客様への注意を喚起するため本記号を表示しています。
---	--

	本製品内部には絶縁されていない「危険な電圧」部分が存在し、感電のおそれがあるため、お客様への注意を喚起するため本記号を表示しています。
---	---

## 「火災、感電のおそれ、あるいは人体への危害に関する注意事項」

**警告：** 本製品のご使用にあたっては、以下の点に注意してください。

- 1) 本製品を使用する前に取扱説明書をよくお読みください。
- 2) お子様の近くで使用する場合には、ケガ防止のため十分な注意を払ってください。
- 3) 本製品は水回りでは使用しないでください。例えば浴槽、洗面台、台所の流し付近、濡れた床の上、あるいはプールの近く、その他これに類する場所では使用しないでください。
- 4) 本製品は、単独もしくはアンプ、ヘッドホン、スピーカーと組み合わせて使用した場合、過大な音量により聴力障害を引き起こすおそれがあります。過大な音量、または不快感を招くような音量での長時間の使用は避けてください。
- 5) 本製品は、ラジエーター、熱器具、その他熱を発生する製品から離して設置してください。
- 6) 長時間ご使用にならない場合には、コンセントから電源プラグ抜いてください。
- 7) 本体に物を落としたり、液体が流れ込まないように十分な注意を払ってください。
- 8) 以下の場合、サービス担当者が本製品の修理・点検を行います。
  - a. 電源コードまたはプラグが破損した場合
  - b. 製品に物が落ちたり、液体が流れ込んだ場合
  - c. 製品が雨にさらされた場合
  - d. 製品が正常に作動していない、あるいは演奏状態に著しい変化が生じた場合
  - e. 製品を落としたり外装が破損した場合

## 目次

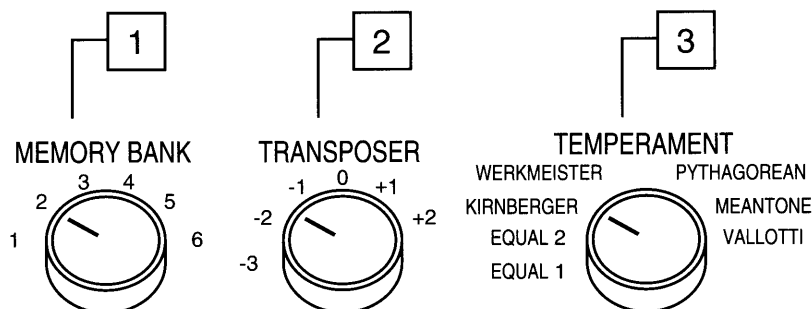
第1章 左側パネルのコントローラー .....	P 3
第2章 中央パネルのコントローラー .....	P 4
第3章 右側パネルのコントローラー .....	P 6
第4章 手鍵盤部パネルのコントローラー .....	P 6
第5章 ペダル部のコントローラー .....	P 8
第6章 サイドパネルのコントローラーと接続端子 .....	P 8
資料 MIDIIインプリメンテーションチャート .....	P10

### 注意!

■リチウム電池の警告:本製品にはリチウム電池が使われています。電池を間違えて取り替えると爆発の危険があります。必ずMaxell CR2032を使用してください。正しい極性でご使用ください。使用済み電池は、メーカーの指示にしたがって処分してください。

■商品の品質向上のため、お断りなく仕様・規格を変更することがあります。本取扱説明書に記載された情報も、それにともない予告なしに変更される場合がございます。あらかじめご了承ください。

## 第1章 左側パネルのコントローラー



**1. メモリーバンク・セレクター:** このつまみを回して、6つのメモリーバンクのうちいずれかを選択し、ジェネラルメモリーとして設定できます。

**2. トランスポーザー・セレクター:** このつまみを回して2半音まで高く、3半音まで低く移調できます。弾きにくい調を演奏する場合や歌や楽器の伴奏の際に便利です。

**3. テンペラメント・セレクター:** この機能を使うと、様々な時代や国々で使われていた当時の正しい調律で演奏できます。真の古典音楽を忠実に再現したいオルガニストの方のために、ジュビレイト227-230-232では、歴史的なテンペラメント(音律)を7タイプ設定しています。

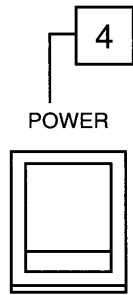
・EQUAL1,EQUAL2,KIRNBERGER(キルンベルガー),WERCKMEISTER(ヴェルクマイスター),VALLOTTI(ヴァロッチィ),PYTHAGOREAN(ピタゴラス音律),MEANTONE(ミーントーン)

・EQUAL1-EQUAL2: パイプオルガン独特の不均等な音律。パイプの変化(温度と経年変化)によって生じたパイプの響きの微妙な狂いを、限りなくリアルに再現することができます。

・KIRNBERGER(キルンベルガー), WERCKMEISTER(ヴェルクマイスター), VALLOTTI(ヴァロッチィ): バッハ、ベートーベン、ショパンなど古典派からロマン派にかけて愛された音律です。クラシックの名曲はほとんどこれらの調性的音律によって書かれました。

・PYTHAGOREAN(ピタゴラス音律): ギリシャ時代の音律です。ピタゴラス音律は古代ローマに伝わって以来、中世音楽の時代にも使用されました。

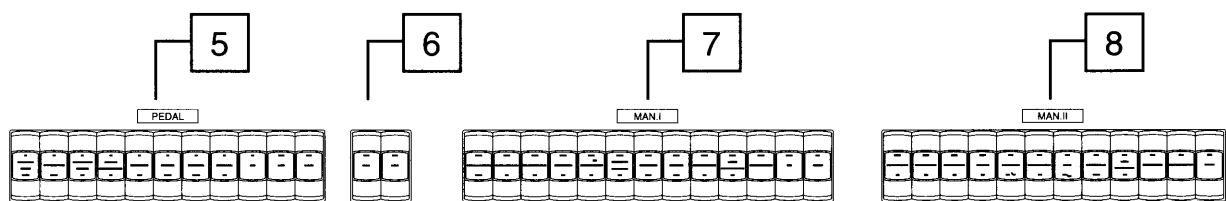
・MEANTONE(ミーントーン): ルネッサンスからバロック時代の鍵盤楽器における標準的な調律法でした。日本語では中全音律といいます。



#### 4. オン・オフスイッチ：ジュビレイト227-230-232のオン・オフスイッチです。

<注意！>雷が鳴り出したら必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

## 第2章 中央パネルのコントローラー



**5. 足鍵盤部：**足鍵盤用の全ストップがあります。また手鍵盤同士あるいは手鍵盤と足鍵盤のレジストレーションを連結するボタン（カプラー）もあります。カプラーは、ある鍵盤で設定したすべての音色を、他の鍵盤でも演奏でき、ひとつの鍵盤で2つの鍵盤の音を同時に鳴らすことができます。下記の組み合わせが可能です。

- ・ I/P：第1手鍵盤（MAN I /グレート）のレジスターが足鍵盤で演奏できます。
- ・ II/P：第2手鍵盤（MAN II /スウェル）のレジスターが足鍵盤で演奏できます。

さらにここには、MIDIボタン（第6章25項「MIDIプログラムボタン」を参照ください）もあります。オフにしておけば、MIDIノートデータは送信されません。プログラムチェンジ、コントロールチェンジ、システム・エクスクルーシブ等のメッセージの送受信は常にオンです。

- ・MIDIチャンネル・プログラム機能は、MIDIボタンと第1手鍵盤の下にあるセット・ボタン（S）を一緒に押すことで作動します。MIDIボタンが点滅を開始すれば、希望するMIDIチャンネル番号を入力することができます。
- ・チャンネル番号は、各番号に対応した鍵盤（エンター・キー）を押して入力します。第2手鍵盤の最も低いオクターブのCからAまでのキーが0～9に対応しています。また次のCは、クリア機能を持ち、最後に入力した操作がキャンセルされます（第4章14項「エンター・キー」を参照ください）。
- ・入力したい番号が一桁の場合、たとえばチャンネル6と入力したい場合には、数字0（最低音C）と数字6（最低音F#）のキーを押す必要があります。2番目の数字が入力されると、チャンネル番号が記憶されます。

#### 6. 自動ペダルボタン（A.P.）とボイスバリエーションボタン（A/B）

●自動ペダルボタン（A.P.）：第1手鍵盤を演奏する際、このA.P.ボタンを押すと、足鍵盤のレジストレーションが鍵盤の最も低い音に加わります（但し足鍵盤数の範囲内）。たとえば、左手でC,E,G（ド、ミ、ソ）と同時に弾くと、最低音C（ド）にだけペダル音のCが加わり、手鍵盤のみの演奏でも足鍵盤のストップの効果を得られます。

<注意>A.P.ボタン使用時は、ペダル鍵盤は使えません。

●ボイスバリエーションボタン (A/B) : このボタンを押せば、オルガンのサウンドをバロック←→ロマンティックに切り替えることができます。

**7. 第1手鍵盤部 :** 第1手鍵盤 (MANI/グレート) のストップがあります。このストップを使って、第1手鍵盤のレジストレーションを作ります。ここには第1手鍵盤と第2手鍵盤のレジスターを組み合わせるカプラーのボタン (II/I : 第2手鍵盤のレジスターが第1手鍵盤で演奏できます)、MIDIスタイルボタン (バロック-ロマンティック) および第1手鍵盤用のMIDIスイッチもあります。

**8. 第2手鍵盤部 :** 第2手鍵盤 (MAN II/スウェル) のストップがあります。このストップを使って第2手鍵盤のレジストレーションを作ります。ここには第2手鍵盤用のMIDI スイッチもあります。

#### ■MIDIについて

MIDIとはMusical Instrument Digital Interfaceの略です。

MIDI (ミディ) は、電子楽器同士をつないで音楽情報や演奏データを交換するための世界共通の規格。楽器同士の互換性がアップします。たとえばジュビレイト・オルガンの鍵盤で演奏したメロディを別のシンセサイザーで発音させたり、ジュビレイト・オルガンで市販のMIDIデータを再生することができます。

以下、MIDIに関して頻繁に使われる用語を説明します。

・MIDIチャンネル : MIDI機器には16チャンネルあります。いろいろなデータのすべてがこれらの16チャンネルを通して別々に送受信されます。結果、最大16台までのMIDI機器を個別にコントロールすることができます。また当然ながら、接続したMIDI機器同士でチャンネルが違えばデータのやりとりはできません。両方のMIDI機器の送信/受信チャンネルは合わせる必要があります。

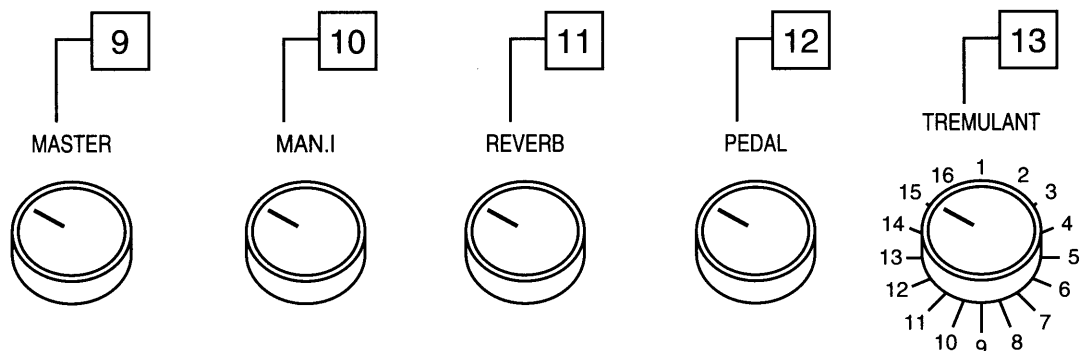
・ノート・オン/オフ : 楽器に、どのノート (音符) を、どのくらい長く、どのくらいの強さで弾くかを伝える重要な情報です。

・プログラムチェンジ : プログラムの選択に使います。ほとんどの楽器がメモリーしたプログラムを持っており、それぞれがプログラム・ナンバーに対応しています。メモリーナンバーを知っていれば、好みのプログラムを呼び出すことができます。ジュビレイトでは、ジェネラルあるいは専用メモリーに割り振られたナンバーのボタンを押すことで、希望するプログラムが選択できます。

・コントロールチェンジ : コントロールチェンジデータは、演奏に表情をつけるために使います。たとえば、音量調整 (コントロールチェンジ7番)、拡声ペダル作動 (同じく64番)、残響度の送信 (同じく91番)、コーラス量の送信 (同じく93番) などがあります。

・システムメッセージ : MIDIチャンネルとは関係なく、システム全体の調整を目的としたメッセージです。この中には「システム・エクスクルーシブ」、つまり特定の楽器のみが解釈できる指令があります。たとえば、機器のプログラム作成用のバルク・ダンプ (BULK DUMP) などが挙げられます。こうした指令には、通常メモリーエリアに保存されているプログラム作成パラメーターが含まれています。指令は、上述のパラメーターを、ある機器から同じタイプの別の機器へと送るのに使われます。また、外部のメモリーに保存できます。(事故等でデータが万が一紛失したり消去してしまった場合に、コンピューターやシーケンサーから呼び出せます)。

### 第3章 右側パネルのコントローラー



**9. マスターボリューム (MASTER) :** このつまみで、オルガンの全体の音量を調節します。

**10. 第1手鍵盤ボリューム (MAN.I) :** このつまみで、第1手鍵盤部の音量を調節します。

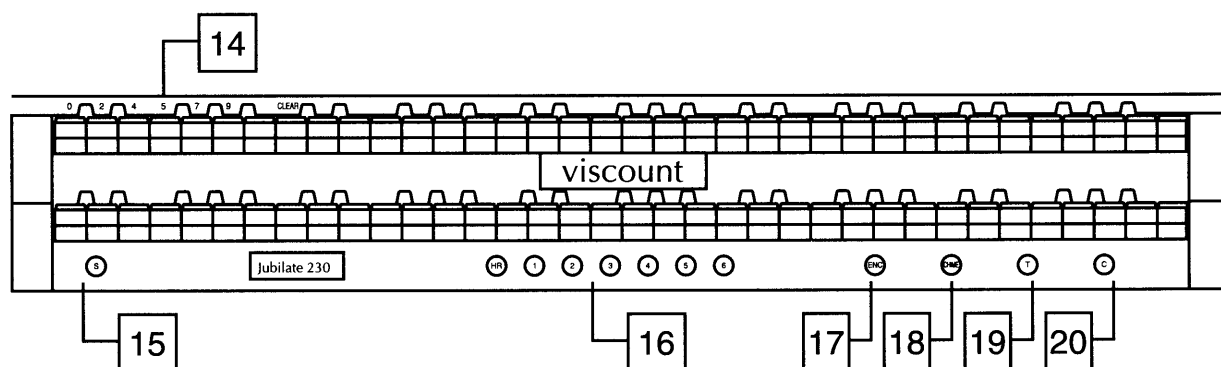
**11. リバースボリューム (REVERB) :** このつまみで、リバース (残響) 量を調節します。自然反響の少ない小さな室内でも、広い部屋やホールで演奏しているような、豊かな残響効果を得ることができます。

**12. 足鍵盤ボリューム (PEDAL) :** このつまみで、足鍵盤の音量を調節します。

**13. トレモロコントロール (TREMULANT) :** このつまみで、16種類のトレモロを選べます。電圧コントロールおよび周波数変調。

<注意>ジュビレイト227のコントローラー位置は異なります。

### 第4章 手鍵盤部パネルのコントローラー



**14. エンター・キー :** 第2手鍵盤の左側、0～9の番号とCLEARの文字がついている鍵盤をエンター・キーと呼びます。この部分の鍵盤を押すことで、MIDIチャンネルをプログラムする際のチャンネル番号が入力できます。プログラムチェンジデータ送信の際にも使用します。

**15. セット・ボタン (S) :** このボタンは、メモリーをセッティングする時に使います。(詳しくは第2章をご参照ください)

**16. ジェネラル・メモリー (HR; 1-2-3-4-5-6) :** 作成したレジストレーションは、メモリーに保存できます。ジュビレイト227-230-232には、全体のレジストレーションが保存できる6つのジェネラルメモリーがあります。メモリーには、1から6までの数字およびHR (0として扱われる)と記されたボタンがあります。HRプッシュボタンを押せばレジストレーションは前の設定に戻ります。

ジェネラルメモリーのプログラムの手順は以下のとおりです。

- ・まずキャンセル・ボタン (C) を押し、既存のレジストレーションをいったんクリア。その後に希望するレジストレーションを選んで設定変更します。

- ・次に第1手鍵盤の左下にあるセット・ボタン (S) を押し、ボタンを押しながら、6つあるジェネラルメモリーのナンバーボタンのうち、いずれかを押し、新しい設定内容を保存します。

- ・ジェネラルメモリーでは、複数の鍵盤のレジストレーションが保存できます。複数の演奏者が同じオルガンを使う場合でも、各演奏者は、違うメモリーバンクに違う番号をつけ、各自の設定を保存することが可能です。

**17. エンクローズド・ボタン (ENC) :** このボタンを押せば、第2手鍵盤用エクスプレッションペダルを使って、オルガン全体の音量が調節できます。

**18. チャイム・ボタン (CHIME) :** このボタンを押せば、第2手鍵盤上で、他のすべてのレジスターをカットして、チューブラー・ベルの音を出すことができます。

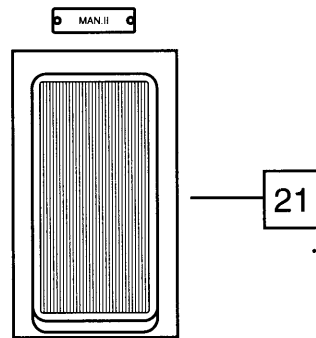
**19. トウッティ・ボタン (T) :** このボタンを押せば、あらかじめ設定したレジストレーションをすべて作動させることができ、瞬時にフルオルガンの状態 (ほとんどのストップが入っている状態) になります。

<注意>トウッティではボイスモジュレーションやトレモロはかかりません。

**20. キャンセル・ボタン (C) :** このボタンを押せば、オルガンすべてのレジスターがオフになります。



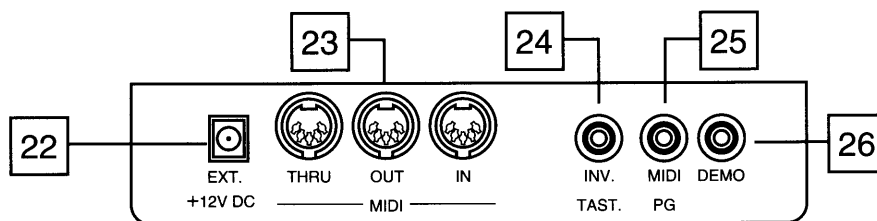
## 第5章 ペダル部のコントローラー



**21. 第2手鍵盤用エクスプレッションペダル:** 第2手鍵盤用のエクスプレッションペダルです。第2手鍵盤の音量を調節します。また、エンクローズド・ボタン(ENC)をオンにすれば、このペダルでオルガン全体の音量を調節することもできます。

## 第6章 サイドパネルのコントローラーと接続端子

左サイドパネル



**22. EXT+12V DCコネクタ:** +12ボルトの電圧が得られる2つの接続端子です。通常は、リモート(REMOTE)機能として利用し、接続したオプションのスピーカー・スイッチを作動させるために使います。

**23. MIDIイン-アウト-スルー (MIDI IN-OUT-THRU):** オルガンをMIDI音源に接続するためのMIDI接続端子です。

MIDI機能を使用するためには、データをやりとりするためのMIDI機器とその機器を接続するためMIDIケーブルが必要です。MIDI機器は通常、以下の3つのMIDI接続端子を備えています。

- ・MIDIイン: 他のMIDI機器からMIDIデータを受信するための端子。
- ・MIDIアウト: 本機から他のMIDI機器へMIDIデータを送信するための端子。
- ・MIDIスルー: MIDI機器を直列接続するために、MIDIイン・ポートで受信したMIDIデータをそのまま送ります。

(第2章「MIDIについて」もご参照ください)

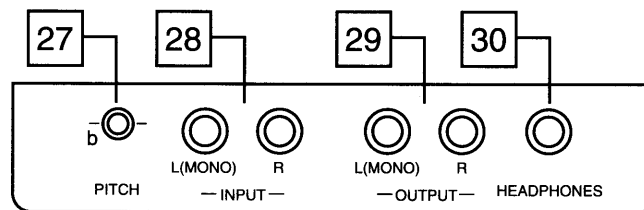
**24. 手鍵盤反転ボタン (INV):** このボタンで2つの手鍵盤のレジスターが反転します。第1手鍵盤のレジスターが第2手鍵盤のレジスターに変わります。その逆も同様です。

**25. MIDIプログラムボタン (MIDI PG) :** プログラムチェンジデータ送信用ボタンです。MIDIインターフェイスによって外部MIDI機器にプログラムチェンジデータを送信するには、このボタンを押すと同時に、変更したいセクション(足鍵盤、第1手鍵盤あるいは第2手鍵盤)のMIDIボタンを同時に押します(レジスター部に配置。第2章「中央パネルのコントローラー」をご参照ください)。次いで、選んだセクションのMIDIボタンが点滅し始めたら、エンターキーを使って、チャンネルあるいはプログラム番号を入力します。そして3番目のキーを押す、つまり、3つ目の番号が入力されると、MIDIボタンの点滅が止まり、プログラムチェンジメッセージが送信されます。

<注意>プログラムチェンジ・メッセージは、エンターキーで3番目のキーを押さないと送信されません。つまり、3つの数字を入力する必要があります。たとえば、プログラムチェンジ番号30を送信したい場合、0-3-0とキーを押さなければなりません。メモリーが呼び出されると、自動的にそこに含まれたプログラムチェンジデータが送出されます。

**26. デモ・ボタン (DEMO) :** このボタンを押せば、あらかじめオルガン本体にメモリーされている8つのクラシックデモ曲のいずれかを呼び出すことができます。デモ・ボタンを押しながら、聴きたい番号に対応したエンターキーを押すことで、デモ曲が選択できます。

右サイドパネル



**27. 全体ピッチ :** ここでオルガン全体のピッチを微調整します。納品時のジュビレイトは、A=440Hz(ピッチ調節ノブは中央に位置)に初期設定されています。

**28. インプット L (MONO) -R :** オルガン本体のスピーカーで外部音源を鳴らすための接続端子。モノラル音源を入力する場合は、L (MONO) の接続端子を使います。

**29. アウトプット L (MONO) -R :** アンプを使用せず、直接録音したい時に使用するラインアウト出力端子。この接続端子は一般に、カセットレコーダーなどのアナログ録音機器での録音に使います。モノラルでの録音の場合はL-MONOの接続端子のみ使います。

**30. ヘッドホン端子 :** ステレオヘッドホン用の接続端子。ヘッドホンを接続すると、オルガン本体のスピーカーからは音が出ません。

## 資料 MIDIインプリメンテーションチャート

ヴァイカウント ジュビレイト227-230-232

バージョン：1.0

機能		送信	受信	備考
ベーシックチャンネル	デフォルトチェンジ	1-3 1-16	1-3 1-16	1.第2手鍵盤 3.足鍵盤 2.第1手鍵盤
モード	デフォルト メッセージ 代用	モード3 ×	モード3 ×	
ノートナンバー	トゥルーボイス	24-106	24-106 24-106	
ペロシティ	ノート・オン ノート・オフ	×	×	
アフタータッチ	キー チャンネル	×	×	
ピッチベンダー		×	×	
コントロールチェンジ	7 11	○ ○	○ ○	メインボリューム エクスプレッション
プログラムチェンジ	トゥルー#	0-127	×	
システム・エクスクルーシブ		○	○	
システム (コモン)	ソングポジション ソングセレクト チューン	×	×	
システム (リアルタイム)	クロック コマンド	×	×	
オグジュアリーメッセージ	ローカルオン・オフ オール・ノート・オフ アクティブ・センシング リセット	×	×	

モード1: オムニ・オン、ポリ  
モード3: オムニ・オフ、ポリ

モード2: オムニ・オン、モノ  
モード4: オムニ・オフ、モノ

○=イエス  
×=ノー

**viscount**<sup>®</sup>  
CLASSIC ORGANS

**発売元**

ヤマハ株式会社 国内楽器営業本部 施設事業推進室 施設営業プロジェクト  
本社 〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11(日本生命高輪ビル) TEL.03-5488-6693  
東京支店 〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11(日本生命高輪ビル) TEL.03-5488-1676  
大阪支店 〒542-0081 大阪市中央区南船場3-12-9(心斎橋プラザビル東館) TEL.06-6252-5753  
名古屋支店 〒460-8588 名古屋市中区錦1-18-28 TEL.052-201-4376  
九州支店 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL.092-472-2155  
北海道支店 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50(ヤマハセンター) TEL.011-512-6114  
仙台支店 〒980-0804 仙台市青葉区大町2-2-10 TEL.022-222-6025

**総輸入元**

ヤマハミュージックレーディング株式会社  
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-28-5 蛸殻町Fビル7F TEL.03-5641-1031  
ホームページアドレス:<http://www.y-m-t.co.jp>